

九〇号記念特集

令和の文学 その現在と未来

巻頭座談会

田中和生 × 阿部公彦 × 富岡幸一郎 × 伊藤氏貴

6

吉村萬壺 戦時としての日常

31

横尾和博 文学の涯

35

中上 紀 令和の大海原で

39

前田速夫 場所は記憶する

44

中島たい子 オチオチしてられない

48

村上政彦 アジアの物語作家として

52

石原千秋 令和文学年表は可能か

56

松本 徹 自己肥大を碎け

60

文科 戻し訳 『源氏物語 A・ウェイリー版』の世界 森山恵 68

奥浄瑠璃の英雄 阪口弘之 70

『流木記』のこと―「書く」という糾罪について 窪島誠一郎 72

失われた聖性 執行草舟 74

カミュ『ペスト』―記憶することの大切さ― 村瀬亨 77

創作 鎌倉幽世八景〈5〉 飢渴畠 藤沢周 82

医学と文学の間〈9〉大鐘稔彦 92

乱雲の月―後光厳天皇の時代
―アウトサイダーの生涯―
南北朝は成立しなかつた 松本徹 109

企画

李良枝 没後三〇年

ヤンジャー オデイロカニ
양지야, 어디로가니?

川村 湊

64

街の記憶 植木智 124

座頭転がし 杉 崇志 138

アサギマダラ 寺本親平 150

大蒜オーバーステイ 中村徳昭

メリーゴーランド 浅田厚美 182

163

同人雑誌季評

依存と桎梏 谷村順一 243

流れの外に出ること 河中郁男 249

連載
名作の舞台―記録と記憶⑤⑥
尾崎一雄「虫のいろいろ」・太宰治『斜陽』 清水節治 80

海の詩学―三島由紀夫 7
オスカー・ワイルドの囁き(後半)―『サロメ』をめぐって 鈴木ふさ子 206

学界への窓 17

佐藤泰志の位置

―中澤雄大著『狂伝 佐藤泰志 無垢と修羅』刊行に寄せて 勝原晴希 219

私の朝鮮半島地図⑫ 最終回

仕合せな若者たちと美しい骨董の町 柴田翔 224

「ことば」と「からだ」 30

離れる〈3〉 芹沢俊介 228

中上健次と韓国 2

キンジニヤニヤ―『紀州 木の国・根の国物語』を読む① 中沢けい 237

文藝季評 40

まっとうな？人生 伊藤氏貴 240

「私小説」を歩く 第二十五回 秋山駿

おめえ、おれにはおれの生きるスタイルがあるんだよ。 佐藤洋二郎 284

大倉山から 13

裏返しの自殺―戯曲と『仮面の告白』 松本徹 290

道元「正法眼蔵」の宇宙と人間(四)

山水の道(続) 勝又浩 302

砦

勝又浩 162

会員規約

今号の執筆者

編集後記 312

311